

第2回米沢市農政審議会会議録【要点筆記】

会議名称	第2回米沢市農政審議会
開催日時	令和6年10月9日（水） 午前10時00分から午前12時00分まで
開催場所	米沢市役所 庁議室
出席者	会長 大和田 浩子（山形県立米沢栄養大学 健康栄養学部長） 副会長 小関 善隆（米沢市農業委員会 会長） 委員 二宮 啓一（米沢平野土地改良区 理事） 委員 鈴木 巖（山形県農業共済組合 理事） 委員 大竹 茂（山形おきたま農業協同組合 米沢地区総括理事） 委員 佐藤 政和（米沢市認定農業者会議 会長） 委員 加藤 英樹（米沢商工会議所 会頭） 委員 石塚 久子（米沢市消費生活研究会 会長） 委員 我妻 拓也（青年農業士） 委員 佐藤 修一（米沢青果株式会社 代表取締役社長） 委員 山下 亨（置賜総合支庁産業経済部 農業技術普及課長）
欠席者	委員 安部 憲一（米沢市農業振興組合長会 会長） 委員 齋藤 義浩（置賜総合支庁産業経済部 農業振興課長）
事務局出席者	産業部長、農政課長、農政課長補佐、農政課米沢牛振興室長兼畜産主査、農政課農政主査、農政課農産主査、農政課主任（農政担当）、農政課主事（農政担当）
会議次第	1 開会 2 会長挨拶 3 中間報告 （1） 米沢市農業振興計画策定作業部会について （2） 第2次米沢市農業振興計画（素案）について （3） 意見交換 （4） その他 4 閉会
会議資料	次第、米沢市農政審議会設置条例、第2回米沢市農政審議会席次表、米沢市農政審議会委員名簿、第2次米沢市農業振興計画策定作業部会実施内容（報告）、第1回米沢市農業振興計画策定作業部会会議録【要点筆記】、第2回米沢市農業振興計画策定作業部会会議録【要点筆記】、第3回米沢市農業振興計画策定作業部会会議録【要点筆記】、第2次米沢市農業振興計画策定に係るスケジュール（変更後）、第2次米沢市農業振興計画骨子案（概要）、第2次米沢市農業振興計画（素案）
会議内容	
【1、2、4】省略 【3 中間報告】 （1） 米沢市農業振興計画策定作業部会について 事務局から次第P.4～16に基づき報告があり、意見、質問なし。 （2） 第2次米沢市農業振興計画（素案）について 「第2次米沢市農業振興計画（素案）」の訂正について説明。 P.22の「3.農業算出額の目標」について、「<u>現在</u>（令和16年度）」を「<u>目標年度</u>（令和16年度）」に訂正。 事務局から「第2次米沢市農業振興計画骨子案（骨子案）」に基づき計画全体説明、「第2次米沢市農業振興計画（素案）」P.24～55に基づき施策の内容について説明。	

第2回米沢市農政審議会会議録【要点筆記】

(3) 意見交換

第2次米沢市農業振興計画（素案）について、意見交換を行った。

主な意見は次のとおり。

- ・6次産業というからには、金額的な規模が必要ではないか。道の駅米沢での金額等を積み上げるにより、6次産業の目標というのが見えるのではないか。
- ・6次産業化にはマーケティングの意識が大事。こういった需要があるのかを外の目線から見必要がある。
- ・グリーン・ツーリズムでは、上杉まつりの関連事業が参考となる。親子でセッティングすることにより高い値段でも訪れ、リピートもしてくれる。
- ・また南原地区で活動されている方は、関係人口を増やすということにつながっている。直接的ではないがすばらしい先例があるので、農業の振興にも力を貸していただければよいのではないか。
- ・地域計画は毎年見直しを行っていくことが重要である。
- ・未整理地は受け手がいないため、未整理地を整備することも重要ではないか。
- ・親元就農の割合が低い。やはり「もうかる農業」が重要であり、補助事業を含め、参入率を高める政策が必要ではないか。
- ・今後10年先を見通した計画として地域計画の策定を行っているところだが、本気で守る場所を設定し、取り組む必要がある。山林化しているところは非農地化し、守っていくところに予算をつぎこむことが必要ではないか。
- ・担い手等に優良農地として残すことが大事であり、区画整理を進めているところ。
- ・未整理地を整理するためには、調査・設計費がかかる。実費が地主経費となり、その経費が出せないことで区画整理が進まないところがある。浅川地区などいい事例もあるのに、それにのれない地区もある。未整備地区で大型機械が動くわけがない。
- ・農業を支えているのが小規模農家であるが、つや姫は面積条件があり、青色申告が必要などと様々な制約があるために、小規模農家にとって魅力がない。小規模農家が安定して農業を続けられる施策が一つでもあったらいいのではないか。
- ・花き農家が減っている中でりんどう栽培者が若干増えている。
- ・ワラビやリンドウを中山間地域で栽培する人に、どの程度の作業、経費が必要なのか、十分な説明が必要であり大事である。
- ・冷涼な気候を生かし、りんどう栽培に、最大限本気度を出せるのか。これから進めていく上では、どのくらいの価格で取引されているのかをデータをとり、今後始める人に説明していくことが大事。
- ・デメリットの説明も必要。栽培管理が必要。毎日の日々の管理が大事となる。余裕の時間があるのか。他の作物を削ってりんどうにシフトしていくのか。がんばってやれるかという意思確認をしていかないと難しい。
- ・稲作よりは収益があがるが、大規模にはできない。
- ・わらびを転作作物としている方もおり、すばらしいものを生産しているので、高値で売れている。今後、拡大して需要があるのか、販路を探し、確立していかないといけない。
- ・個体数調整とは具体的にどういうことなのか。どの数字がベストなのかもわからない。猿が山に戻るといえるのは考えにくい。地域住民との方と鳥獣被害についての話し合いも必要だと考えている。
- ・目指す将来の姿で「若者が希望を持てる魅力ある農業の実現」とあるが、農業界全体が希望もっていないと、若者に影響を及ぼさない。「農業者が希望をもって」としてはどうか。
- ・10年後の算出額75億について、6次産業も含めて考えれば、もう少し目標は高くてもいいのではないか。
- ・作業量、出費が重なり、米の収量が減り、なんとかやらなきゃいけないところで、地域の人だけであるというのが限界にきている。もう少し、一押し、文章の表現を考えてほしい。

第2回米沢市農政審議会会議録【要点筆記】

夢をもって農業に携われるようにしてほしい。

- ・親元就農の新規の方とか、移住で就農されている方が本市には存在しているので、支援を推進していただきたい。
- ・新規就農の仲間づくりということで、新規就農者に声をかけてネットワークを作ってもらえるといい。本来なら自発的がよい。
- ・県の農業支援でかつての経営塾では山形県内の同期でネットワークを作っており、お互い刺激をうけている。
- ・他の自治体でも市単位で行っているところもある。お互いの経営を高めあうことになるので、米沢市でも取り組んでほしい。
- ・補助金をもらうためだけに認定農業者になった人もいる。再認定の際、5年間あったらできそうなものをできていないというのは本気度が低いということで審査からふるい落としでもいいのではないか。
- ・青色申告にも取り組まないというのでは、認定農業者となるのは御遠慮いただいてもいいのかと考える。
- ・今後の施策で取り組むことが多くなるが、役所のマンパワーでは限界にきている。実行できるのかできないのかが最終的に関わってくる。
- ・酒米について、農業者自身が酒屋を探す必要があるという現状がある。酒米についても簡単に取り組めるというのはいかがなものかと考える。
- ・田の作付面積は、再生協に関わっている面積かと思うが、作付面積の現状把握についてもしっかり把握する必要がある。
- ・道の駅の販売物に米沢の物品がもっとあってもよいのではと思う。買取販売ということで道の駅が鶴岡、県外（九州）の販売スペースを確保していることを不思議に思っている人も多い。地場産のものがあるので、もうすこしスペースを確保していただけるよう是正していただきたい。
- ・ばらばらの農家ではなく、集落農家、集落農営、法人化が最終的にはいいのではないかと考える。米沢市で農業を助けてくれる大きな大企業を引き込むことをしていただければと思う。
- ・新規就農に必要なのは農機具。新規就農者に機械のレンタルがあってもいいのではないのか。
- ・農機具メーカーに現状を伝え、レンタルサービスを打診してもいいのではないのか。
- ・水稻経営は莫大な設備投資が必要である。作業委託した場合、委託料を払うと生産者に残るものがないのでそこを補助してもらえると水稻にも参入しやすいのではないのか。
- ・野菜は排水対策が必要である。5年水張ルールがあるがまた水を張るといのはいかがなものかと思う。メリットがない。
- ・温暖化対策により果樹など被害が出ているが、地球温暖化は1人1人が努力するしかない。
- ・6次産業の成功に必要なのは、売れる商品を扱えるか、確かな販路があるかということ。
- ・地産地消を伸ばすためには、観光業、レストラン・旅館で積極的に使ってもらえる必要あるため、PRをしてほしい。
- ・食育については、学校給食で十分にできている。農家と学校の連携もあるので、現状を維持していただきたい。
- ・中山間地域でのりんどうの振興を進めていきたいと考えており、取組を始めている。米沢市の農家と産地見学会（勉強会）を実施した。普及課からも所得を示しながら支援している。
- ・畜産は、機械、施設など投資が大きい。既存農業機械等の更新でさえ補助がなければ難しい状況。支援がかかせない。
- ・公共牧場、畜産団地の形成をうまく利用し、個別農家のコスト削減を考えてほしい。

第2回米沢市農政審議会会議録【要点筆記】

- ・ 耕畜連携による自給飼料の生産、置賜育ちの米沢牛の価値を高めてほしい。
- ・ 家畜伝染病の対策強化が重要。
- ・ 土づくりを基本とし、未熟なたい肥は使わないのが望ましい。完熟たい肥を作ってもらうこと、それに対する支援をしてもらえるとよい。

（４）その他（事務局から連絡）

- ・ 第3回審議会の日程について連絡。
- ・ パブリックコメントを実施した後、第4回の審議会を行うことがある旨連絡。
- ・ 今回の意見を反映するよう、事務局で素案の練り直しを行い、次回審議会までに内容の修正を行う。